

見守り・つながりガイドブック

津ながり事例集



津市社協マスコットキャラクター
ころん

社会福祉法人津市社会福祉協議会

はじめに

津市内においては、地区社会福祉協議会等を中心に、それぞれの地域の実情に応じた、様々な住民主体の福祉活動が行われています。

生活支援コーディネーター¹（以下、「SC」という）は、積極的に地域に入り、人々の暮らしの中にある様々な知恵や工夫・技を見つけ出し、それらを意味づけ、住民にその意義を意識してもらったり、周囲に見える化することが重要な仕事の一つです。

この事例集は、「見守り（＝つながり）」に通じる、津市内の様々な福祉活動をまとめたものであり、中にはSCが「住民とともに協働して取り組んでいるケース」、「すでにある地域の活動を発掘して紹介しているケース」等、様々な内容を掲載しています。

これらの事例を通して、「見守り（＝つながり）」がいかに大切であるかという視点を共有するとともに、今後の地域づくりのヒントを得ていただき、活動の参考にさせていただければ幸いです。

社会福祉法人津市社会福祉協議会

¹ 生活支援コーディネーターは、住民のみなさんや関係団体・機関とともに、地域でのつながりづくりや支え合いを推進し、高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる「地域づくり」に取り組む役割を担います。

目次

事例 1	子どもを通して、地域のみんなで繋がりを！	1
事例 2	地域住民同士の「支え愛（合い）」活動.....	2
事例 3	笑顔溢れるその一瞬を写真に！	3
事例 4	団体間連携によるチーム力で、より良い地域へ....	4
事例 5	暮らしを支える見守り会議.....	5
事例 6	はげましの手紙.....	6
事例 7	地域の憩いの場.....	7
事例 8	階段昇降機で安心してサロンもお参りも！	8
事例 9	お互いがお互いの心強い見守りパートナー♥	9
事例 10	移動販売&サロン	10
事例 11	「ゴハンサン」は、見守りのバトン	11
事例 12	自治会と民生委員・児童委員との情報交換会 ...	12
事例 13	～向こう三軒両隣で助け合い・見守りを～	13
事例 14	地域のつながり再発見.....	14
事例 15	認知症になっても、旅行で最高の思い出を！ ...	15
事例 16	～コロナ禍のフレイル予防～	16
事例 17	今、出来ること（万羽鶴大作戦）	17



事例1 子どもを通して、地域のみんなで繋がりを！

活動主体 いくっこ・さろん（子ども食堂）

内 容

毎月1回、第2土曜日に、橋南市民センターにて開催されています。

PTA や地域の方による見守りボランティアが、子どもたちの為に「地域で何か出来ないか」と模索していた中で、小学校・主任児童委員・地区社協と会議を重ね、平成28年度からスタートしました。

遊びを通じ、コミュニケーションや食育、多世代との交流・居場所作りを目的に、今年で6年目を迎えます。

サロンでは、子ども達自身でルールを作り主体的に参加してくれています。



👉 SC の一言ポイント

月1回、サロンの中心となるメンバーで運営会議を行っています。その会議にSCも入り、ざくばらんに意見を出し合い、「子どもを地域全体で見守ろう」と活動を応援しています。

コロナ禍では思うようにサロンを開催できていませんが、その代わりに小学校と協力し、全生徒にクリスマスプレゼントの配布をしたり、活動のPRを兼ねた「いくっこ通信」を作成し、育生地区全域で回覧をしてもらうなど、「今、できること」を考え、活動を続けられています。



事例2 地域住民同士の「支え愛（合い）」活動

活動主体 ささえあい・とのふね

内 容

平成30年から始まった、地域住民同士による支え合い活動です。殿舟団地の住民（原則65歳以上の高齢者）で、生活支援を必要とする方に対し、住民自らができることをボランティアで行い、支え合うしくみとなっています。

また、活動を安定して継続していくため、定期的に団体による運営会議が開かれ、皆で知恵を出し合っています。



👉 SCの一言ポイント

近年、高齢化や一人暮らし高齢者等の増加により、買い物、ごみ捨て、移動手段等、様々な生活のしづらさが増えています。このような中、自分たちの地域は自分たちで住みやすくしていこうと、住民主体の助け合い活動として、「ささえあい・とのふね」の活動が続けられています。

しかし、5年後、10年後の高齢化率を考えると、将来的には、ボランティアだけでは支援ができなくなってしまうのではないかという意見もあり、運営会議に自治会長を招き、自治会との連携に向けての話し合いの場を持つなど、先を見据え、工夫をしながら、支え合い活動に取り組まれています。



事例3 笑顔溢れるその一瞬を写真に！ みんなの笑顔の写真展

活動主体 一身田地区社会福祉協議会（実行委員会）

内 容

コロナの感染拡大により、地域経済の停滞だけでなく、毎年楽しみにされていたイベントが次々と中止となっていました。一日中テレビの番だけで、話し相手はテレビだけという一人暮らし高齢者の声も聞かれる中、「地域の絆を強め、地域力を高めよう！」と、実行委員会をつくり、地域ぐるみで「笑顔」の写真の募集を開始しました。

集まった笑顔いっぱいの写真は、令和4年1月4日から町内の施設等に展示され、住民に笑顔の輪を広げています。



👉 SCの一言ポイント

コロナの感染拡大は、人と人とのつながりを極端に少なくしました。特に高齢者は感染を恐れるあまり、外出することなく家に閉じこもり、要介護状態の悪化を招くなど悪影響も引き起こしました。この地域では、コロナ禍の今だからこそ、アフターコロナを見据え、安全・安心の環境下で「いかに地域の絆を深め、地域力を高めていくか」を考え、地区社協が中心となり、住民の知恵を結集した地域力によって、この企画の実現を果たしました。どんな時でも、「人の知恵を出し合う場」があれば、何かしら可能性が見えてくることをSCとして実感しています。笑顔の写真を通じて、人の輪、人の和が広がっていきますように。



事例4 団体間連携によるチーム力で、より良い地域へ

活動主体 明日の雲出を育てる会

内 容

この地域では、「本当に住民の困りごとに焦点を当てた活動ができているのか？横の連携が必要ではないか？」といった考えから、地区社協、自治会連合会、青少年育成会、民生委員児童委員協議会等の各団体が集まり、雲出地域の住民へのアンケート調査を行い、「地域の生の声・困りごと」等を把握するとともに、団体同士の横の連携を深め、地域福祉活動を展開していこうと定期的に話し合いを続けています。

また、「各団体の活動が住民に知られていない」という声もあがり、まず、それぞれの団体活動を知ってもらおうと、「雲出社協だより(創刊号)」を発行し、団体の活動をPRしていこうと話し合いを行っています。



👉 SCの一言ポイント

地域では様々な団体が活動していますが、団体同士が互いの活動についての意見交換をしたり、協議したりする機会は少なかったかもしれません。そこでこの会では、アンケートから「住民の生の声」を把握し、各団体が横の連携をとりながら、地域の困りごとや課題を解決する為、それぞれの強みを活かしながら役割分担を行い、同じ着地点に向かって一丸となって進んでいこうとしています。

同じ目的を共有し、各々が自分の長所を活かし、知恵を出し合う、このような、団体同士の「つながり」を活かした「チーム力」が、みんなが暮らしやすい地域を作っていくのだと思います。



事例5 暮らしを支える見守り会議

活動主体 榊原地区社会福祉協議会、自治会、民生委員・児童委員、老人クラブ、見守りチーム員

内 容

地域内で高齢者が孤独死したのをきっかけに平成19年、見守りチームを発足しました。見守りチーム員は自治会や民生委員・児童委員、地域住民で構成されており、一人暮らし高齢者だけでなく高齢者世帯など、幅広い対象を見守っています。見守り会議ではマップや見守り台帳を使い、見守りを希望している方や地域で気になることについて話し合いを重ねています。山間部では高齢化が止まらず地域課題が増えています。永く暮らし続けた地域で安心して生活できるよう、見守り支援体制を確立しています。



👉 SCの一言ポイント

榊原地区では高齢者の孤独死をきっかけに、非常時だけでなく日常的な支え合いを実現するため、地域での見守り活動に取り組んでいます。見守りは見守られる側と見守る側に分かれず、互いに気にかけてあう意識が大切と感じています。見守り活動に同行させていただいた時、見守りチーム員が活動中にお会いする方からの「長いこと見なかったね」という声を聞き、“お互いが見守りをしている”見守られる側も見守る側の変化に気づいていることも多いと思いました。

また、見守りの仕方や場面を型に当てはめる必要はありません。畑や道で会った時に声をかける等、見守りは地域住民の誰がしても見守りになる、緩やかなものだからこそ大切にできていると思います。



事例6 はげましの手紙

活動主体 成美地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、成美小学校

内 容

民生委員を通じて一人暮らしの高齢者に手紙を書いてもらい、成美小学校に寄贈、さらに児童から返事をもらうというやり取りをすることで、子どもと高齢者の交流を図りました。当初は地区内の一人暮らし高齢者がコロナ禍でも自宅にこもりきりにならず、字や絵手紙を書いて楽しんでもらおうという思いからできた活動であり、児童から返事をもらう予定はなかったそうです。「密」を避けた活動の中でも、子どもと高齢者の距離を近づけることができ、子どもを外で見かけたときは挨拶等の声かけができればと今後の身近な交流のきっかけになりました。



👉 SCの一言ポイント

コロナ禍でも代わりになるような活動はないかと模索していた地区社協、普段からの関わりの中で手紙の協力を動いた民生委員、お返しの手紙を書くことで感謝の気持ちを伝えようと考えた小学校、それぞれの思いが形になったものと感じています。

コロナ禍で多くの交流が中止せざるを得ない中、子どもと高齢者の交流は世代を超えて互いに見守るという意識ができたきっかけにもなったのではないかと思います。また、それぞれに関係性があるからこそできたことであり、地域にある資源を使い地域を盛り上げる活動に学ばされました。この活動を通し、コロナ禍でも地域住民の思いが、手紙として形になっています。



事例7 地域の憩いの場

活動主体 地区社会福祉協議会

内 容

地区社協の活動範囲である小学校区内に、地域の方が集まりやすいようにと3か所に会場を置き、民生委員さんの協力のもと、巡回してサロンが開催されています。参加者は好きな時間に来て、お茶を飲みながら楽しくお話をされています。

「ご近所同士で誘い合って」、「サロンで会えるのを楽しみに」等、みなさんいろんな思いを持って参加されています。

また、参加者の中に認知症の症状かなと思われる方（サロンから家に帰る途中で迷ってしまった経験がある）にはスタッフと一緒に参加しているご近所の方がさりげなくサポート。サロンは毎回、参加者の笑顔と笑い声が溢れています。



👉 SCの一言ポイント

「今日あのの人に会えたわ」「今日あの人がいないわ。どうしたのかしら」来ていない人のことをスタッフに尋ねたりして、自然と見守り、見守られる形がつけられています。ご近所同士で誘い合って参加する、参加してみんなとおしゃべりを楽しむことで、つながりが深まり地域の見守りにつながります。

また、参加者から心配の声が聞かれた時には、サロン終わりに様子を見にいったり、関係機関に相談したりと、スタッフである民生委員が、一緒に参加しながらみなさんの様子を気にかけてくださることで、このサロンは、誰でも安心して参加できる地域の憩いの場になっています。



事例8 階段昇降機で安心してサロンもお参りも！

活動主体 ふれあいいきいきサロン

内 容

このサロンはお寺の本堂で行われており、お参りに来られた方もサロンの参加者も階段を上らなくてはなりません。年齢を重ねるにつれて段差を上ることに心配や不安を持っている方もおり、そういった方が「行くのをやめておこうかな」「お参りできないなあ」と思わないように、無理せず本堂まで上がることができる階段昇降機を設置しました。



👉 SCの一言ポイント

サロンリーダーの方が、階段昇降機を使う方も使わない方も怪我がないように見守ってくださっています。

参加者の上り下りや移動される際も、そばにいて声かけを行っていることもあり、普段からの細やかな気遣いもあるためサロンに来られた方は安心して時間いっぱいサロンを楽しむことができているように感じます。過去にはシニアカーを用意していたこともあり、参加される方のことを思ってたくさんの工夫をされているサロンです。



事例9 お互いがお互いの心強い見守りパートナー♥

活動主体 地域住民と移動販売員

内 容

この地域は、令和元年から毎週水曜日の午後、移動販売が来ています。最初は、防火水槽近くで販売をしていましたが、買い物客でもある住民さんの「雨の時に濡れるから車庫使って」とのご厚意から、車庫を借りることになりました。また、「雨の時だけでなく、夏の暑い時も日陰になるから買い物しやすくありがたいわ」との声も多く聞かれています。

コロナの影響の他、足腰の不安からもスーパーへ買い物に行くことが難しくなり、「ここでしか買い物しないから、いつもかごいっぱいになって大変。でも買い物が私の楽しみの一つ」と言われる方や、家から出ることが難しい母のために代わりに買い物に来てみえる方もいます。



👉 SCの一言ポイント

移動販売員からは、「いつも来ている人が来ないと不安になるし、もしかして何かあったのかも!?という思いから、自宅まで様子を見に行くことにしている」との声を聞きました。何度か様子を見に行った時、体調が悪く顔色も良くなかったことがあり、「どうされたんですか?栄養のあるもの何か持ってきましょうか」と声をかけたこともあるそう。また、販売員さんだけでなく、住民同士もお互いの体調を気にかけてあったりしているので、お互いが心強い見守り相手となっています。

美里地区では、他業者も合わせ30カ所で移動販売が行われています。生活に必要な不可欠な方やおしゃべりが楽しみ、今後の継続のための協力等、人によって目的は様々ですが、今後もSCとして訪問する中で、住民や移動販売員さんからの声を聞き、一人でも多くの方が生活しやすい地域づくりに関わっていきたいと思います。



事例10 移動販売&サロン

活動主体 草生地区仲之郷仲よしサロンと殿出やくし会



内 容

仲よしサロンは平成24年、やくし会は平成31年から始まったサロンです。仲よしサロンは1～2か月に1回、公民館で実施しており、男性が多いことが大きな特徴で、歴代自治会長や地区の主要なメンバーが勢ぞろいしています。春には、毎晩夜桜を楽しみ、男性は集まって麻雀をするなど日頃から仲の良い地区です。

安濃町で高齢化率が最も高いこの地区でも、買い物支援が必要になり、移動販売を導入したことをきっかけに、令和2年4月から、移動販売日にその場でサロンを実施することになりました。幸い屋根のある広い倉庫の駐車場を借りることができ、雨の日も風の日も天候に関係なく毎週土曜日に開催されています。そこに殿出やくし会が加わり、毎回15人前後が集まっておしゃべりに花が咲いています。



👉 SCの一言ポイント

気負わず、日常生活の延長でサロンをしています。毎回お茶をしながらおしゃべりを楽しみ、最近では、月1回、保健センターや包括支援センター等の職員を招いて講話や体操が始まりました。

寒い冬には駐車場の周りにビニールシートをはって防寒対策をし、暑い夏には扇風機を回します。気の知れた仲間と買い物のついでにおしゃべり、なんと楽しい時間でしょう♪ 移動販売の運転手の方とも仲良しになりました。



事例1 1 「ゴハンサン」は、見守りのバトン

活動主体 地区住民

内 容

この地区の住民の間には、戦後から続く習慣があります。この地区のお寺にはご住職がみえません。そこで、住民が当番制で本堂の阿弥陀さんに「ゴハンサン」をお供えし、朝昼晩と鐘を突きます。そして、次の当番の家に「明日たのみますわ」と声かけし、「ゴハンサン」の鉢（仏飯器）を届けにいきます。

たまたま、一人暮らし高齢者のAさんの当番の際、朝も昼も夕方になっても、お寺の鐘の音がなりません。心配になった近所の方が様子を見に行くと、Aさんが倒れているのが見つかり、急いで119番に通報しましたが、残念ながらお亡くなりになりました。

この地域で暮らす一人暮らしの方は、「私の顔をしばらく見なかったら、家へのぞきに来てな。（安否確認しにきてな）」と近所の人同士が声をかけ合っているそうです。今回は、悲しい結果になりましたが、「当番でなくても見守りができているのではないか」と地区のみなさんはおっしゃいます。



👉 SCの一言ポイント

地域の習慣やつながりが、早い段階での異変の発見につながります。なるべく、老人クラブやサロンで顔を合わす機会を増やし、何でも話せる間柄を普段から作っておくことで、お互いに気にかかけあい、見守り合えることができます。やはり「地域の目」が大切です。

SCとして、地域の暮らし、いとなみを丁寧に見ていくことで、地域をさらに深く、広く知っていきたいと思います。



事例12 自治会と民生委員・児童委員との情報交換会

活動主体 安濃地域

内 容

住民が安心して暮らせる地域づくりの為に、各関係機関の連携が必要不可欠です。そこで、令和2年1月より年1回、地区ごとに顔合わせを兼ねた情報交換会が開催され、地区社協会長、民生委員・児童委員、自治会長、行政、安濃団体支援室、SCが参加しています。

この会では、民生委員の活動内容の紹介、地域の課題や悩みごと等を話し合っています。



👉 SCの一言ポイント

民生委員・児童委員は、複数の地区を担当していることから、「居住区でない自治会長とは面識がなく、連絡先も分からないので、一人暮らし高齢者の安否確認の際、困ることがある」という声が多く聞かれました。この会をきっかけに、自治会長と民生委員が連絡先を交換するなどの場面も見られました。

自治会長の視点は、排水、信号、ごみ問題などの「ハード面」、民生委員は「人」という印象を受けました。お互いに視点の違う情報を共有し、連携していくことが大切です。



事例13 ～向こう三軒両隣で助け合い・見守りを～ 「からすっこお互いさま助け合い活動」

活動主体 香良洲地域見守り推進事業実行委員会

内 容

香良洲地域は、全地域が集結して取り組む伝統行事の「宮踊り」や「御木曳き」があり、人と人がつながる住民同士の絆が深い地域です。しかし、近年一人暮らし高齢者が増え、空き家も目立ってきており、「隣は何をする人ぞ」と地域の絆が薄れつつあります。

そこで、地域住民から「何とか打開策はないのか」との提案があり、「向こう三軒両隣の助け合いで、地域の見守りの底力」を合言葉に、地域住民による地域住民のための見守り活動の実現に向け、自治会、自主防、地区社協、消防団、民児協、老人クラブなどの団体で、地域見守り推進事業実行委員会が設立されました。65歳以上の一人暮らし高齢者を対象に、あいさつ、声かけ、生活の様子の見守り等に取り組みます。

～向こう三軒両隣で助け合い・見守りを～ 「からすっこお互いさま助け合い活動」

活動内容

地域で暮らしている65歳以上のひとり暮らしの方が、住み慣れた所でいつまでも暮らすため、向こう三軒両隣の近所同士であいさつ、声かけや日々の生活の様子を気にかけて頂き、いつもの様子と違ったら地域の方などに相談や連絡を取ってもらいます。

見守りのしくみ

見守り ⇒ 気づき ⇒ つなげる



おはよう
こんにちは
こんばんは



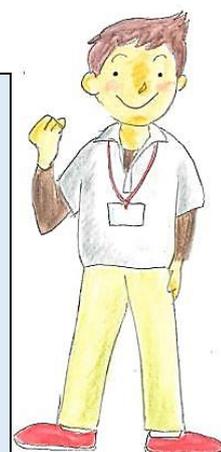
あら!
どうしたのかな?

「つなげる」仕組みは、
実行委員会協議

👉 SCの一言ポイント

地域住民が主体となり、「見守り→気づき→つなげる」ことを基本とし、地域の方に、何ら特別なことをしてもらうのではなく、日々の生活の中で「いつもとちがう」「様子が変だ」という気がかりなことを関係機関に連絡するというのを少しだけ意識してもらう環境づくりをしていくことが重要です。

また、将来的には、登録者や高齢者だけでなく、認知症、生活困窮者などの社会的弱者に範囲を広げ、また、「あなたが見守りの主役です」と住民への意識づけを行うことが肝要です。



事例14 地域のつながり再発見

活動主体 ふれあいいいきサロン
津市社会福祉協議会（小地域福祉活動事業）

内 容

一志地区にはもともとサロンが各地区に複数あり、住民同士がつながる場となっていました。コロナ禍で自粛ムードが高まり一気に活動が下火となりました。

サロンリーダーの「定期的に集まれないので〇〇さんが心配」「集まってもソーシャルディスタンスの中で何をしたら…」という声から、SCはサロン座談会を企画。座談会では、コロナ禍でもできるレク内容や代替の活動について提案しました。

また、「外で体操してもいいかな」「うちは集まって開催はできないけれど、地区内のトピックを載せたお便りを持って訪問している」など、リーダー同士の意見・情報交換の機会にもなり、サロン活動のモチベーションアップにつながる機会となりました。



👉 SCの一言ポイント

新型コロナウイルスの影響で、様々なことが途切れてしまいました。しかし、人と人とのつながりを保ち、コロナ終息まで、地域のつながりを絶やさないことを目標として「今できること」を地域と一緒に考えていくことが大切だと思います。

座談会をきっかけに、「不安で集まらなかったけれど今日のネタを使って1度サロンを開催してみようかな」、「まずは見守り活動から」と、再開のきっかけになったところもありました。



事例15 認知症になっても、旅行で最高の思い出を！

活動主体 ふれあいいいきサロン

内 容

白山地区にあるこのサロンでは、メンバーの中に認知症のAさんがみえるため、日々、声かけをしながら「見守り」を行っていました。ある時、地区旅行が企画され、「行きたい」と参加を望むAさんでしたが、「途中で迷子にならないか」等、関係者としては心配される部分がありました。

そこで、SCに相談があり、できれば「一緒に連れていってあげたい」「何かいい方法はないか」というスタッフの想いを確認し、区長さんやサロンスタッフとともに話し合いを行いました。その結果、Aさんを場面ごとに見守る担当を2人態勢で組むなど、みんなで「見守る体制」が可能となったことで、Aさんも一緒に1泊2日の旅行に参加することができました。



👉 SCの一言ポイント

なにげない相談の中においても、会話の中から相談の本質を引き出し、地域に暮らす一人一人の希望する生活に向けて、地域の想いを確認しながら、ともに考えていく視点が、SCには求められます。

この地域では、サロンメンバーのAさんをきっかけに、認知症でも「旅行に行きたい」という思いを形にすることができました。こういった一つ一つのゴールを積み重ねていくことが、誰もが安心して暮らしやすい地域へとつながっていくのだと思います。Aさんは、この1年後に施設入所となりましたが、地域で最高の思い出を作ることができました。



事例16 コロナに負けない！ いつまでも自分の足でスタスタ歩きたい！ ～コロナ禍のフレイル予防～

活動主体 民生委員児童委員協議会、地区社会福祉協議会、
津市社会福祉協議会

内 容

民児協役員会でのなにげない一言「コロナ禍で個別訪問も中々できない、外出機会も減って気になる」がきっかけで、コロナ禍でもできることはないかを話し合い、まずは75歳以上の独居世帯又は80歳以上の高齢者世帯を対象に状況調査を行うことで一致しました。

そして、民児協全員協議会で、調査の目的や方法について話し合い、取り組みを行った結果、約85%から回答の協力が得られ、「調査結果・分析」のダイジェスト版を作成しました。さらに、この調査（結果）がきっかけで生まれた地区社協の『握力アップ運動』の取組やフレイル予防の場『第2の悠遊サロン』立ち上げ実現に向けて動き出そうとしています。



👉 SCの一言ポイント

会議でのなにげない一言から「何ができるやろ」「こんなのいいんちゃう」といった会話に。「なにげない一言から、新たな活動が生まれる」を念頭に、一人ひとりの会話を大切に、目的と見通しが見える化し、今後の展開をしっかりと形にしていくことがSCには求められます。今回は、状況調査から地域課題（フレイル）が見え、地区社協によるコロナ禍のフレイル予防の取り組みの具体化へつながりました。1団体では1つの活動で終わることも、2つ、3つの団体、組織と一緒に考えることで地域の取り組みが3つにも5つにも広がることを実感しています。SCとして、団体と団体の橋渡しとなり、活動と活動をつなぐことを心がけていきたいです。



事例17 今、出来ること（万羽鶴大作戦）

活動主体 美杉地区社会福祉協議会
津市社会福祉協議会（小地域福祉活動事業）

内 容

美杉は元イベントの多い地区であり、その一つに歳末餅つき大作戦という行事がありました。小・中学生、老人クラブ、自治会を中心に幅広い年齢層のボランティアにより、地域の高齢者にお餅を配り、あったかい正月を迎えてもらおうという取り組みです。しかし、新型コロナウイルスの影響で、地域イベントや公共施設が使用できなくなる中、美杉地区社協と津市社協美杉支部は、自粛中の孤独感の解消や介護予防を目的に、地域で力を合わせて万羽鶴を作る「万羽鶴大作戦～you are not alone」を企画しました。

津市に協力を求め、美杉町各地区にある市役所の各出張所6か所と美杉総合支所等に折り紙と回収箱を設置、2か月で当初の目標1万羽を大きく上回る2万5千羽を超える折り鶴が集まりました。令和3年12月16日から美杉総合支所に展示され、多くの方が見に来られています。



👍 SCの一言ポイント

折鶴は馴染みのある方が多く、子どもから高齢者まで比較的誰でも折れるものです。折り方が分からなければ、身近なつながりの中で、折り方を教え合いっこできるのも良い点で、学校や施設、サロン等多くの方に、好評をいただきました。鶴を折ることで手先の運動や頭の体操にもなるなど、介護予防にもつながります。

そして、何より一つの目標（万羽鶴）を目指し、住民みんなが一体となって作戦を成功することができました。新型コロナウイルスの終息した穏やかな日常が一日も早く戻ってきますように。



あしがき

地域での支え合いは、人と人がつながることから始まっています。そして、そうしたつながりを、私たち SC は「地域の宝物」と呼びます。

津市内には、たくさんの「地域の宝物」と呼ぶべき福祉活動がありますが、当事例集はあくまでその一部のみを掲載しています。

私たち SC は、今後も地域の様々な活動を応援するとともに、「SC 通信（SC が発行する情報誌）」等を通じ、随時情報を発信していきたいと思ひます。

生活支援コーディネーター



【編集・発行】社会福祉法人 津市社会福祉協議会

059-213-7111

【発行日】令和4年3月1日

「幸福で健康な人生に必要なのは、富でも
名声でもなく、人とのつながりである」

ハーバード大学「幸福で健康な人生を送るには何が必要か」
をテーマにした研究結果より